



三日後も雪が残っている日陰  
だめだよと言うと悲しい瞳のあなた  
一緒に泣いてあげると言った妹よ  
新しい葉のせいか寝落ちする  
カメムシがマスク侵入一騒動  
脳トレのお陰暗算早くなる

上尾市 中村伸子

さいたま市 星野育子  
黒田投手殿堂入りにおめでとう  
お決まりの秘書が秘書がと五人衆  
過去学び耐震対策身守る  
地方紙に載せる載せない記事がある  
子育ても看取りも終り自己管理

呉市 増野臣子

糸切れた凧の彷徨能登の空  
発想の転換幾多の句を捲る  
独り居の買いだめ癖となりにつけり  
啓蟄や八十路もそろり動き出す  
戦禍殺傷震災いのち重し

総社市 小塚未希

元日よ逆夢祈る大地震  
食もなく見ていられず横になり  
出来事を受け止められず眠れない  
三ヶ日家族の料理お取り寄せ  
仲間から初カラオケの電話あり

福山市 酒井日出夫  
無理しても手が届かないオリオン座  
辛い過去全てプラスにして生きる  
元旦に初泳ぎする鴨仲間  
梅の花白く咲くから苦が見えず

福山市 石田絹代  
祓うても鬼の子座る肩の上  
美容院行く日服かえ靴かえて  
言の葉が指を折らねば散ってゆく  
訳もなく泣いてスツキリ靴をはく

岩出市 高良侑未  
鬼もいないか静かなる住宅地  
前歯抜け節分の豆食べられず  
70過ぎて欲しいものいっぱいある  
同じ病気のスターの死は落ちこむ

三原市 家部澄恵  
気は重いされど仕事が始まります  
アンパンマン子ども心を驚掴み  
テレビ前「待ってました」とする拍手  
一周忌涙こらえて思い出話

東広島市 和泉歩美  
白身黄身キレイに分けて気分良し  
好きなモノみんな違つて迷う食  
雨上がり虹が見えたと大騒ぎ  
忘れたら不便で不安スマホさま

竹原市 河崎厚子  
何でも即答わたしの視野を広げるスマホ  
生き写し亡母の痛みの染みる歳  
どう生きる急勾配の下り坂  
オーバードーズ若者達の悲鳴です  
春よ来い能登半島に早く来い  
邪気祓い今年も春の幕が開く

竹原市 山本京子

定位置に着いて一息つく道具  
レモン鍋瀬戸田のようにして食べた  
乳房の検査伸ばし挟み痛い  
誕生日年数よりもある不思議  
チェロの出す低音床がここちよい

竹原市 楠貞子

笑顔で接する医師の目がやさし  
天災はどんな備えも通じない  
おしゃべりの友が嬉しいデイサービス  
いい天気心入れ替えさあやろう  
目も耳も衰えそれでも生きています

竹原市 元吉慶子

山茶花一輪添えて華やかなる仏間  
駅伝の石川ががんばれ出る涙  
歌会初めテレビの前で畏まる  
カーテンを引くには惜しい丸い月  
雪の朝なんだか嬉し子に戻る

竹原市 國兼千代美  
朝型と夜型同じ屋根の下  
ワイン一口味を覚えた妻である  
よく走った母と一緒に福祉車両  
まったりまったり二歳と過ごす冬炬燵  
一生懸命生きてる母の応援団  
月命日二十五年も過ぎたのか

竹原市 木島泰子  
おもいっきりつまずきころび怪我はなし  
兄と姉でんやわんやでベッド組む  
かず汁の差し入れおいし寒さ知る  
私の絵手ふるえてもなんのその  
あまのじやくごめんなさいと言えた夜

竹原市 古田比呂子  
煮詰まった私に少し水を足す  
塞ぎ虫私の中から出てお行き  
もやもやを包んで捨てる新聞紙  
もうちよつと手を伸ばしたら星とどく  
春の音予定書き込むカレンダー

竹原市 古谷節夫  
柳誌から力をもらい笑みが湧く  
マイペース一歩一歩へ活を入れ  
不器用な俺にも詠める五七五  
健康が一番今日もウマイ酒  
アリガトウ今日も感謝の目を閉じる

竹原市 若年 幸子

被災TV明日は我が身と心する  
検診予約その前に行く美容院

通院三日ちよつと疲れた今日は雨  
少子化へお墓じまいのピラ寂し

髪を染めショートカットで春を呼ぶ  
明日は晴ウオーキングの靴揃え

竹原市 菅 弘子

防犯灯夜警安堵の娘の配慮  
姦しい雀日脚も春となり

縁側へ解けるストレス有難い  
ひよつこりの来客おでんあり合せ

千の風いつも見守る負けまいぞ  
節電をするもしないも一人住む

竹原市 松田 栄香

眠れない夜は昔を散歩する  
目標があるから今朝も良い目覚め

ひと呼吸おくと言葉に味が出る  
お誘いの電話で急に出る元気

竹原市 今井 初音

猫島も兎の島も観光地  
病院に行けば薬が又ふえる

孫達が雛を飾りに里帰り  
四年ぶりのふれあい祭り特訓中

川柳塔に私の好きな句で参加

竹原市 田中 敬子

新年の抱負は神にだけ話す  
ほどほどの幸 ダルマは小さめに

大吉が出るまで御神くじ三枚目  
共白髪思えどやはり白髪染

肉・野菜「食べろ食べろ」と娘の電話  
しあわせは八十路に曾孫と鬼ごっこ

竹原市 栄谷 白狐

自分でも信じられない古希の春  
被災地を思えば不足云うとれず

ありがたい電気水道ガスも出る  
お金だけ送る孫ではつまらない

金柑が熟れて母さんもういない  
いいなあと旧い家並に灯がともり

竹原市 岩本 笑子

いつまでも竹原の灯でありたいと  
雨は静かに私を追い越してゆく

追い越しておいて手まねきするのです  
税金の話になってペンを持つ

竹原市 向原 道子

青春は手編みのマフラーと共にあり  
被災地に追いうちかけること雪が

御法話を聴聞してもすぐ忘れ  
政治家よ政治の基本に立ち戻れ

瞑目し心穏やか気分よし

竹原市 金沢 節生

老介護1タス1が2にならぬ  
二番手が安全圏でアレ狙う

幸は二人旅行を思い出す  
順番も番狂わせもない施設

目がさめて目の出を拝む施設部屋  
祖父と孫 娘できつと珍道中

竹原市 新潟 史子

春ですねうぐいす餅を食べている

### ジュニアの部

御菌宇小三年 和泉 沙弥

妹はわたしにたよってばっかりだ  
しもばしら思いつきりふんでみたい

母さんのおむすびがおいしいよ  
なわとびで200回できるか三年生

忠海学園二年 江島 央

おおのり子どもえんゆりぐみ  
おどろかされてもしゃっくりとまらない

えしま すすず

竹原市 小島 蘭 幸

神明さんのでっぺんに置く志  
誌上大会君のリベンジ待つように

スマホ二台目使いこなしたことがない

田中 敬子

栄谷 白狐

岩本 笑子

向原 道子

小畑 宣之

小川 道子

長谷川 穂美

川本 靖子

永井 良心

増野 臣子

元吉 慶子

吉永 団風

吉永 団風

### 会計だより (令和六年二月十五日)

寄付・寄贈 元吉慶子 吉永団風

会費 令和六年後期まで 川本靖子 永井良心 小畑宣之

令和七年後期まで 増野臣子 小川道子

長谷川穂美 会計 古田 比呂子

### お知らせ

※二月の総会に於いて、第1回竹原誌上川柳大会を開催  
することになりました。4月号に大会案内を掲載致します  
ので、会員の皆さまのご支援ご協力をよろしくお願い致  
します。

中央専門誌「月刊 川柳塔」の購読をお薦めします

定価 一冊 八〇〇円 (+送料一〇〇円)

半年分 五〇〇〇円 (送料共)

一年分 九八〇〇円 (送料共)

令和六年二月三日(土)

二月句会

於：道の駅たけはら

出席者 京子 慶子 泰子 蘭幸 比呂子  
 千代美 笑子  
 投句者 穗美 団風 和子 澄恵 敬子 宣之  
 榮香 弘子 夢香 白狐 節夫 未希 寿子  
 日出夫 節生  
 月間賞 國兼 千代美  
 お誕生日おめでとうございます(二月生まれの方)  
 栄谷白狐 古谷節夫 小川道子 増野臣子  
 金沢節生 河崎厚子

宿題「霜」 國兼 千代美 選

霜柱ザクザク踏んで又さがす 泰子  
 霜柱バリバリ踏んだ反抗期 和子  
 霜柱ちよつと休んでいいですか 笑子

肝エコー霜降り様の脂肪あり 京子  
 霜が降り鍋と大きな冬野菜 未希  
 霜の朝田んぼも畑もキラキラと 穂美  
 酒蔵の湯気がさまよう霜の朝 節生  
 霜柱素足で踏んだ戦中派 節夫  
 霜がふる亡愛犬ねむる椿にも 敬子  
 お日さまが霜をとかして冬ヤサイ 白狐  
 霜降りるまじはエンジン始動から 夢香  
 幾星霜私も刻む歴史です 京子  
 霜の朝家の影だけ消え残る 宣之  
 七十年生きて今年もしもやけじゃ 団風  
 後悔の足跡霜が消していく 榮香  
 霜の朝麦踏む農を見た昭和 慶子  
 心地いいザクザク畑今朝の霜 弘子  
 霜が降りるまでは多忙な姑でした 寿子  
 佳作  
 霜柱ザクザクと勇者来る 蘭幸  
 霜柱踏んで行かねばならぬ道 榮香  
 ニッポンの霜降り肉は世界一 和子  
 霜にあい美味しくなりますほうれん草 澄恵  
 春恋し人恋し霜降りる朝 比呂子  
 人位  
 ライバルに負けてはおれぬ霜の朝 節夫  
 地位  
 ビッグニュースが霜柱踏んで来る 蘭幸

天位

一面の霜に大地の力瘤 比呂子  
 軸吟  
 祖母の愛靴温めて霜の朝

宿題「しつとり」 山本京子 選

しつとりと酔わせてくれる湯の香り 夢香  
 石畳しつとりぬれて出る風情 澄恵  
 孫みんな帰りやさしい雨が降る 蘭幸  
 孫の肌我もあつたかその昔 弘子  
 しつとりと心に染みるしゃべりかた 泰子  
 点滴が終りしつとりする体 榮香  
 酒場にてギター爪弾き一人酒 団風  
 乳液をたつぷりつけてひと安心 澄恵  
 芸の道極めしつとり古稀の艶 敬子  
 あの人と旅の途中で風の盆 穂美  
 フランク永井の歌しつとりと沁みてくる 寿子  
 しつとりとした義姉には逆立ちしても負け 団風  
 しつとりとした雰囲気ウマイ酒 節夫  
 しつとりしたカステラ店の自慢です 寿子  
 母ゆずりのしつとり肌金かけぬ 未希  
 新年の肌しつとり残りゆず 節夫  
 しつとりと攻められ本音吐かされる

終章をしつとり染める趣味の彩 敬子  
 しつとりと着物着こなす祖母卒業 和子  
 しつとりと和服姿の初詣 未希  
 佳作  
 美顔器がもうしつとりはムリですよ 白狐  
 潤いが欲しくてテレサ・テンを聴く 蘭幸  
 しつとり肌になるよと来るチラシ 慶子  
 しつとりと所作まで見える京言葉 慶子  
 しつとりと和服日本へいいね押す 比呂子  
 人位  
 赤飯がしつとり蒸れる母の味 榮香  
 地位  
 苔むしてしつとり馴染む古寺の庭 慶子  
 天位  
 すっぴんのしつとり顔の君が好き 団風  
 軸吟  
 辛味付き濡れ煎餅が今日のアテ

宿題「一一」 小島蘭幸 選

二番にもなることなかった人生 澄恵  
 二坪の菜園からの旬の味 榮香  
 甘辛を上手に使う友の知恵 節夫  
 上見てる甘え上手の下二人 未希

午後のコーヒー二人で話す義母のこと  
二人三脚さあこれからがスタートだ  
二度とない今日を悔いなく生きていく  
いつの間にか二番のイスが心地好い  
二の舞を踏まさぬ様に言い聞かす  
日本酒も甘いケーキもOKで  
二番目の母は義母だが息が合う  
八十路坂二階暮らしは限界か  
二年前たしか正座は出来たはず  
お揃いの服で可愛いベビーカー

目の中の背中があるから頑張れる  
梅が咲く2月生まれの妻がいる  
ナンバー②が似合ってたわたくしは  
コンビニに肉饅ニケで借るトイレ  
一番の努力を知っている二番

八合目までは二番でいるように  
泣き虫を二月の風に叱られる  
話すならナンバー②の人がいい

八合目までは二番でいるように

特別課題「晴れ」

尾道市 村上和子 選

晴れ晴れと山の頂き初日の出  
夢いっぱい孫の就活日本晴れ  
青空に風船ひとつ気まま旅  
勇気出しノーと言えた日の天晴  
難問が解けた途端に晴れた空  
なにも無かったけれどこころは晴れていた  
冬晴れにふと亡母想う黄水仙

正月の空で晴れやか和風舞う  
人生は晴れも曇りも土砂降りも  
雨のち晴れ人生これで締め括る  
晴れやかに笑えた日には二重丸  
疑いは晴れていないが許してる

晴れ男だった大酒飲みだった  
晴れやかな笑みに隠した闘病記  
晴好雨奇を愛でるところのままに  
世界の願い戦地の空よ晴れ渡れ

晴れ男だった大酒飲みだった  
晴れやかな笑みに隠した闘病記  
晴好雨奇を愛でるところのままに  
世界の願い戦地の空よ晴れ渡れ

穂美 子  
笑子 子  
和子 子  
未希 子  
慶子 子  
夢香 子  
慶子 子  
宣之 子  
団風 子  
慶子 子

京子 子  
日出夫 子  
寿子 子  
敬子 子  
白狐 子  
弘子 子  
比呂子 子  
千代美 子

荘野地域交流センター川柳同好会一月例会

令和6年1月11日(木) 於：荘野地域交流センター

「参加者」美恵子 タズコ 千代美 純子 富美子  
「投句者」寿美子 泰子

宿題「餅」 國兼 千代美 選  
いつの間に餅食べるのも命がけ  
私揉む不揃いな餅並んでた  
元旦に餅ふたつ食べもうひとつ  
あん餅に白みそじただて祖母の雑煮  
餅つきの音もなつかし年の暮れ  
子ら帰りひとりのんびりきなこもち  
年あらた亡父の雑煮を思い出す

宿題「雑詠」 國兼 千代美 選  
ろうばいの匂いだよう玄関に  
手作りの母の綿入れすてられぬ  
しっかりと振りかえりみる我が姿  
川柳や特別ボケの妙薬や  
輝く二十歳元気もらって奮起する  
初夢は夫婦二人で温泉旅  
被災地の能登半島は今日も雪  
百まででは生きたいという母の初春

各地大会案内

創立95周年記念 2024ふあうすと川柳大会

日時 令和6年4月14日(日) 十時開場  
場所 兵庫県民会館 9F大ホール  
(神戸市中央区下山手通4-16-3)

宿題と選者(欠席投句拝辞・各題2句・席題なし)  
「広い」弘兼 秀子 選「追う」長谷川酔月 選  
「紙」岡田 篤 選「バトル」木本 朱夏 選  
「にっこり」天根夢草 選「生きる」田中 新一 選  
「雑詠」赤井 花城 選 ※出句締切11時  
会費 二〇〇〇円(記念品・発表誌呈) 昼食は各自  
主催 ふあうすと川柳社

川柳マガジン「川柳杯」二〇二三

課題「味」：令和五年十月募集  
賞金十万円  
応募総数三八八六句

大賞 太陽をボンと割つたら卵焼き 石川 憲政  
竹原川柳会会員の入選句  
古川 正章 選  
妥協するお酒の味はほろ苦い 上村 夢香  
長谷川哲夫 選  
人間味匂もプラスの道の駅 上村 夢香